



—東地中海地域ニュース—

シリア：ミッチェル米中東和平特使の訪問

(1月21日付現地各紙)

1. バッシャー大統領との会談
 - (1) 1月20日、バッシャー大統領はミッチェル特使と会談し、両国関係、和平の展望、地域情勢について話し合った。
 - (2) ミッチェル特使は、和平プロセス推進のための米国の努力について説明し、米があらゆる面で和平プロセス推進のために取り組んでいることを強調した。
 - (3) バッシャー大統領は、公正かつ包括的な和平の実現を希求するシリアの原則的姿勢を改めて強調すると共に、和平を望んでいないことを明確にする政府を真のパートナーと見なすことは出来ないと述べた。
 - (4) また、バッシャー大統領は、和平実現のためには占領の終結および権利の回復が求められることを述べると共に、和平プロセスにおけるトルコの役割の重要性を強調した。さらに、和平は中東に存在する多くの問題解決に資すること、及び解決の遅れは一層問題を複雑化させることを強調した。
 - (5) 同会談にはムアッリム外相、シャアバーン大統領顧問、ミクダード副外相、米側同行団が同席した。また、ミッチェル特使は、ムアッリム外相とも別途会談した。
2. ミッチェル特使は、プレスに対し以下の通り述べた。
 - (1) 和平プロセス及び二国間関係における具体的進展を実現させるため、両国の前向きな関係を期待する。バッシャー大統領との会談では、両国関係に関する重要事項について広範な議論を行った。
 - (2) オバマ大統領及びクリントン国務長官は、パレスチナ・トラック、シリア・トラック、レバノン・トラックにわたる中東の包括的和平にコミットしている。
 - (3) これらの努力におけるシリアの役割は、米国や国際社会の行動と同様に重要であり、このことはバッシャー大統領とのこれまでの会談でも確認してきた。近くダマスカスを再び訪問することを祈っている。